

人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ —第二幼稚園の挑戦—

②4歳児担任のお話

「砂場あそび」

温泉づくりや川・だんご作りなどが好きですから、水が多いほうが楽しいんです。

- ・「タライ」のお水は、協力して運ぶこと
- ・「〇〇ちゃん、1回も汲んでこないじゃん」と言われたら、しぶしぶでも汲みに行くこと
- ・「樋」を蛇口に付けて水を流せば、川が2本3本とできること
- ・砂遊びが終わったら、みんなで片づけること

「入れて」「いいよ」「貸して」「ありがとう」・・・砂場では自分勝手にしては楽しく遊べませんからね。



③5歳児担任のお話

「リレー」

5歳児になると、ルールに従って遊ぶ楽しさも分かってくるんです。一人が「リレーやりたい」といってみんなに声をかけますね。でも、みんなが賛成してくれないとできません。

- ・みんながやりたい時、また声をかけなければいけないこと
- ・コースの内側を走ったりすると「ずるした」といわれること
- ・走ることに苦手な子の距離は短くしてあげてもいいこと
- ・勝つことも負けることもあること

サッカー・リレー・おにごっこ・いすとりゲーム・・・ルールに基づく身の処し方をトラブル解決の中で学んでいくんです。



キーワードは「遊び」

学びの広場

「夢中になる遊び」の場で学ぶ



大好きな遊び＝本物の遊びのとき、子どもは工夫し、努力し、対立するものを克服しようとする我慢することさえします。

①3歳児担任のお話

「ゴーオンジャーごっこ」

手作りのお面やベルトをつけ、6段の跳び箱から下のマットに飛び降りるんですよ。

- ・格好いいお面を作るには、はさみを上手に使うなければならないこと
- ・並んで順番を待つこと
- ・前の子がマットから出てから、次の子が跳べること（ぶつかったら、謝ること）
- ・高くで登れない子は、順番を待っている子が助けてあげること

お互いにルールを作り、学んでいくんです。初めは3段でも怖かった子も、今では6段から跳べるようになったんですよ。なにせ「変身」していますから万端で怖いものにも立ち向かえるわけです。



「おたまじゃくしに後ろ足が出た!」



不思議だなと思う気持ちを大切にすること



「かたつむりが卵産んだ!」

何よりも大切な意味を持つ言葉「見てごらん」

「ダンゴ虫と一緒に寝たい!」とせがまれると親は困ってしまいます。生き物のぬくもり・感動・発見そして死の悲しみ、その体験が生命を大切に作る基盤をかたち作ります。

「生き物を育てる」場で学ぶ

「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」かつてロバート・フルガムが本を出す時、たちまち世界中で読まれました。私もそうだった!と共感を呼んだのです。小学校でも中学校でも学べないもの、それが砂場にはあるのです。

「変身ごっこ」も「砂場遊び」も「リレー」も「小動物」も幼稚園の子どもは大好きです。同時にそれを3歳児の熱中する「ゴーオンジャーとび」に発展させるのが指導者の感性であり研究の内容なのでしよう。子どもたちはさまざまな経験や感動体験をします。それが規範意識の芽となっていくのです。



「イチゴ赤くなってきた!」

「クローバー食べるよ!」



つさぎや発泡スチロールに蒔いた小さな種さえも、生きていくこと

「こわくない。持てるよ。ほ～らね」



「お母さん、これ持って!」

好ききらいせずには食べよう



使ったものはみんなで片づけるよ

幼稚園の日常風景